

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：大学院保健学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 ・博士前期課程に助産学コースを設置し、助産師教員の育成、助産師のスキルアップ、及び高度の実践能力と基礎的研究能力をもつ助産師の育成を図るべく準備を進める。 ・博士前期課程の志願者、とくに医学部保健学科の卒業生を確保する。このため修了生、とくに放射線科学技術分野、検査技術科学分野修了生の就職先を拡大すべく努力する。 ・研究指導体制を強化するため、博士前期課程、博士後期課程とも研究論文作成前に、看護学、放射線科学技術、検査技術科学の各分野ごとに合同の研究発表会を開くことを義務づける。 ・WTTで受け入れた研究者を教員として育てるため、教育にも部分的に関与してもらう。	・助産師のスキルアップ、及び高度の実践能力と基礎的研究能力をもつ助産師の育成を図るべく博士前期課程に助産学コースを設置した。 ・保健学研究科博士前期課程看護学分野に医学部保健学科の卒業生を助産学コースで5名、それ以外で2名確保した。また、保健学科の卒業生のうち医歯薬学総合研究科を修了した学生が1名、保健学研究科を修了した学生が2名大学、および短期大学の教員に採用された。 ・博士前期課程、博士後期課程とも研究の中間段階での研究発表会を開き、検査技術科学分野では毎月1回発表会を開いたが、看護学分野では社会人学生が多いために3分野合同の研究発表会を開くのは非常に難しく、看護学分野だけで合同発表会を開くようにするほうが現実的とかがえられた。 ・WTTで受け入れた研究者にも実習に参加してもらった。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 ・科学研究費の採択率を維持するとともに、採択金額増を目指す。このため、学内他部局、国内の他施設との共同研究を推進する。	・科学研究費の採択件数、採択率は岡山の他部局と比較して劣らないが、獲得研究費は伸びていない。これを改善するため、学内他部局、国内の他施設との共同研究も行っているが、もっとこれを推進する必要がある。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 ・リカレント教育を通じた地域貢献として、助産師・看護師のスキルアッププログラムを継続して行う。 ・親子教室、老人大学等での講演等を通じた地域貢献を引き続き行う。	・助産師スキルアッププログラムは非常に好評で平成23年度も20名の修了者を出した。また、岡山大学病院と行っている看護師のスキルアッププログラム、特に新人看護師研修は3年目を迎えて内容が充実し、参加者も増えた(「EBM志向の次世代看護職教育システム開発」平成23年度報告書、3月19日に阿部理事、榎野病院長を加えた評価委員会を開催した)。 ・親子教室、老人大学等での講演等を通じた地域貢献を引き続き行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
ほぼ達成できたが、これらを継続するとともに岡山大学病院、特に看護部に勤めている卒後3年から5年の医学部保健学科の卒業生を大学院生として迎え入れ、博士前期課程修了生の一部は岡山大学病院でリーダーとなり、一部は教員をめざして博士後期課程に進学するシステムをつくるようにしていく必要がある。これにより、大学院生のレベル、研究のレベルがあがり、岡山大学病院と連携してより効果的な教育できるようになる。それが、岡山大学病院の看護師確保、地域貢献にもつながる。	